

## 審査の結果の要旨

氏名 党建偉

知的財産の取得は、当該技術の独占的な使用権を得て競合他社との差別化を図ることで収益化を図る一義的な目的のみのために行われるのではなく、ライセンスにおける利用や無形資産としてレバレッジ効果など多様な意図が存在する。党建偉君の学位論文である **Beyond protection of invention: Economic analysis on appropriating technology by patent collateralization and licensing**（発明の保護を超えて：特許担保融資とライセンスに関する経済分析）は、この発明の保護を超えた知的財産の役割に関する経済分析を行ったものである。

論文については、大きく 3 パートから構成される。まず、中国知識産権局の公開特許データを用いたデータベースを構築し、政府における知財取得に対するインセンティブが、出願行動が与える影響について分析を行った。中国においては近年特許出願数が急増し、大量の出願や権利の取得がなされているが、同時に特許出願や権利所得に対して補助金を支払う政策が取られている。分析の結果、当該政策によって、出願行動が促進されるだけでなく、権利幅を狭い権利化されやすい特許がより多く出願される傾向が見られることがわかった。次に特許データと企業財務諸表を接続したデータを構築して、中国における知財担保融資に関する実証分析を行っている。ここでは、銀行の融資判断が、企業のデフォルト率と担保とされる特許の **Liquidity** の両面から決まることを示した。特許の市場価値は当該技術の有用性だけでなく、市場における **Resale** 価値の影響を受けることを示唆しており、知財ライセンス市場の解明に対して新たな手がかりを与えるものとして学術的意義が大きい。最後に、日本企業に対するサーベイデータ（経済産業研究所における新商品に関するアンケート調査）を用いて、知財ライセンスにおける複数ライセンス（**Multiple Licensing**）の決定要因を分析したものである。ここでは、ライセンス市場の供給者（ライセンサー）市場と需要者（ライセンスィー）市場の市場競争度の相対的な関係で、複数ライセンスを行うか、否かの判断が行われていることを示している。こちらについても技術市場を理解するための新しい視点と分析結果を示したものと見える。

審査委員会においては、分析テーマの重要性や分析手法の新規性、分析結果の厳密性の観点から博士論文として十分なレベルにあるものと判断された。特に中国政府における特許取得インセンティブが特許活動に与える影響の分析と

中国における知的財産担保データを用いた特許流動性に関する分析については、それぞれ高い学術的価値を持つ研究成果であることが確認された。一方で、新商品アンケート調査による特許ライセンスにおける分析については、知財のライセンサーとライセンシーの相対的な市場競争度とライセンシー数に関係を主題としたものとなっているが、市場競争度（説明変数）の内生性を指摘する意見があった。また、理論的なフレームワークにおいて改善すべき点があるとの意見もあった。しかし、これらの点を差し引いても、本研究は、知的資産市場においてこれまで取り上げられてこなかった分野に新たなスポットライトを当てるものであり、新規性が極めて高いことから、現状においても十分な学術的価値が存在するものであるとの判断がなされた。

これらの検討の結果、博士論文全体として、知的財産の経済価値や技術市場の分析といった技術経営における重要な学術領域において、ユニークなデータを使った新規性の高い実証研究として高く評価できる成果であるとの結論に達した。

よって本論文は博士（学術）の学位請求論文として合格と認められる。